

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム香寿	ユニット名	太陽
所在地	静岡県磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276600349&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活様式やその方のこだわりを大事にし、出来るだけ継続していけるようにする為使い慣れた馴染みのある物の中で生活していただきます。生活面でも自然な生活リズムを大切にし、起床時間、就寝時間、食事時間を決めずゆったりと一日を過ごしていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、県道に面し、図書館や老人福祉センター、市役所などの公的機関が利用しやすい立地条件となっている。玄関先には、霧囲気の良い庭が設けられ、目に優しい木柵と簡便な門扉が利用者の安全を守る(交通事故等防止等)ための緩衝スペースを作り出している。管理者が、「利用者が大切にしている“もの”、“こと”を職員も一緒に大切に、仕事をしている。」と胸を張って話すように、調査時においても利用者の方々が、話したいことを話し、生き生きと笑顔で過ごすことができるような環境面、対応面での配慮が確認できた。年々地域との関係も深まっており、今後さらなる展開が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念に加えて事業所独自のケア理念を事業所内に掲示し、常に確認している。また具体的に10項目のケア目標として表し実践にとりくんでいる	法人理念及び事業所理念を大切にしており、年2回の全体会議では必ずテーマとして取り上げている。また、「入居者、職員が共に笑って穏やかに過ごせ、喜びを共感し合える家にしたい」という考え方を職員が共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域の防災訓練や草刈りなどに参加している。また利用者様と地域行事を観覧させて頂いたり、散歩に出た時など、地域の方と笑顔であいさつを交わしている。	日常的な散歩や会話などを通して、利用者との農業を営む地域の方との交流が深まり、すいかななどの収穫物をもらうこともある。地域の祭にも参加し、自治会等との関係も良好で、年々地域とのつきあいが活性化している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し地域の防災訓練や草刈りなどに参加している。また利用者様と地域行事を観覧させて頂いたり、散歩に出た時など、地域の方と笑顔であいさつを交わしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度3地区自治会長、市高齢者福祉課職員、地域包括職員、家族代表職員等の参加により開催している。その際の参加者の声をサービス向上に活かしている	会議を“家族の要望や市職員の情報提供や助言に直接触れる機会”として位置付け、管理者を含む職員4名が参加している。地域包括支援センター員は、専門職以外の参加者が内容を良く理解するための支援もしてくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者様と連絡を密に取ることで、情報交換・アドバイスを受け、協力関係を築けるよう取り組んでいる	市の介護相談員が毎月事業所を訪問してくれており、利用者が職員に直接言いにくいことなどを聞いてくれており、傾聴ボランティア的な役割を担ってくれている。市の担当者とも気軽に相談できる関係を形成している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし拘束に繋がるような行為が無いようスタッフ一同心がけている 玄関の施錠は夜間のみとしている	日中は玄関の施錠をしないため、きめ細やかな見守りを心がけている。利用者の突然の行動にも管理者及びフロアの枠を超えた職員同士の連携により丁寧に対応できている。転倒、転落防止用センサーも活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修へ参加している 必要に応じて対応する職員を交代する等して虐待が起こらないよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで日常生活自立支援事業や成年後見制度を実際に利用したケースはないが支援事業や制度について学ぶ機会を持ち、必要性を理解し活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には必ず丁寧な説明質疑応答をしご家族様にご納得いただいてから実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の方から気軽に意見を言って頂けるように、日々コミュニケーションを大切にしている。頂いた意見は申し送り時などスタッフで話し合いをしている。	家族が意見を表明しやすい関係作りに努めている。最近では、運営推進会議における「スタッフのネームプレートを希望する」という家族の意見に対して顔写真入りの職員紹介を掲示することにより対応している。	さらに家族が意見を表明しやすくするためのシステムづくり、例えば定期的な事業所独自のアンケート調査などの仕組み作りが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度話すようにしている	まず、管理者自身が、まめにスタッフに声を掛けるなど、できるだけ職員が相談しやすい関係をつくるよう努力している。さらに、定期的に職員の意向調査を実施しており、アンケート作成をリーダー職員の役割としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修スケジュールを組んだり役割を作ることによりそれぞれの希望や能力に合った条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り業務を通じて必要な知識や技術、心構えを学べるように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や行政主催の連絡会に参加する機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わり合う時間を多く取れる様心掛けている。コミュニケーションを取ることで、少しずつ信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族に困っていることなどを尋ねながら密にコミュニケーションをはかり、ご家族の方の要望・不安など話して頂ける関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階でご本人にとって何が良いのかを一番に考え必要と判断した場合には他のサービスの説明も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をする等できることはやって頂き、支援が必要とされることは、一緒に行うよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を伝えていきながら家族からも情報もらい情報を共有し一緒に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟に連絡したり友人に面会に来てもらったり家族にも協力してもらいながら馴染みの場所へ出掛けられるよう支援している	利用者から“馴染みの人に会いたい”という趣旨の要望があった場合には、必ず家族に連絡し、希望が叶うよう取り計らっている。また、地域の美容院や公民館など、できるだけ馴染みの社会資源を活用するよう心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士でユニットに関係なく過ごせるようにしている 孤立してしまいそうな時には職員が間に入り関係を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にも必要があれば相談や支援ができるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり困難な時には家族から情報を集めたりして本人の意向にそえるよう努めている。	事業所内が穏やかな時は利用者の居室にてゆっくり会話をする時間を設けている。日常的な会話や行動及び家族から得た情報などを基に、センター方式の一部を活用して利用者ニーズの分析や把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人、担当ケアマネ、利用サービス先の職員から今までの生活歴や好みもの生活習慣の聞き取りをし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化を見逃さず、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人、スタッフの意見を取り入れながら介護計画を作成している。	家族に対し、介護計画作成のための会議への参加を要請してはいるが、計画案作成前に要望を聞いている。家族及び本人の要望を介護計画に反映し、公民館のカラオケ教室に参加している利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき・ケアの実践などスタッフ間で伝えあい、対応の相談をしている。個別記録を有効に使用し、介護計画の見直しに活かすよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう、その時々々のニーズを把握し、サービスの多機能化に取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院や移動式パン屋等の利用をしたり地域の行事にも参加させていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、本人・ご家族の方の希望を伺っている。かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように努めている。	入居時、職員付添いができる協力病院の主治医に変更することを勧めているが、入居後も以前からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。診察内容はその都度、連絡を密にとり、家族も安心できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも情報の共有をし必要に応じて受診や医師への相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には何度も病院に足を運び病院関係者との情報交換や相談を密にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方につて、入居時よりご家族の方と話し合い、事業所のできること・方針を共有し、思いにそえる支援ができるよう努めている	事業所全体の看取りについての方針を作成し、常にミーティングで話し合いをしている。終末期には個人の連絡ノートに記録を詳細に記入し、職員全員で確認することにより、確実な情報共有と質の高い支援に心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が確実に対応できるように、学びの場・訓練の強化に努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い自治会長や行政の方にも参加していただいている	年2回、防災訓練を実施している。1回は運営推進会議開催に合わせて実施することで、当該メンバーにも災害時の協力を要請し、昨年末には地域の防災訓練に職員が参加し協力体制を築くことができるよう努力している。	防災訓練は積極的に行い、地域との協力関係が築けるように努力しているが、備蓄に関しては整備されていない。飲料水及び備蓄食の確保に関する早急な検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないようにその人に合った言葉掛けを心掛けている。	利用者の尊厳を大切にしつつ、なじみの関係となりえた職員は、あえて利用者にとって心地よい“昔の呼び名”等を使用することなども意識している。トイレ誘導の際にも、排泄に関わる言葉は遣わないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・買い物等、本人の訴えがある時は可能なかぎり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合で1日の流れが決まってしまうことがあるため改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服を選んでもらったり、男性の方は髭剃りなど出来るところまで行って頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べられない物については代替りの物を提供している。テーブル拭き・お茶汲み・野菜の皮むきなど一緒に行っている。	テーブルや食器拭き、簡単な下ごしらえ等、利用者個々に合った役割をお願いしている。食事専門スタッフが配置されており、魚が食べられない時には肉を、麺類が嫌いな利用者にはご飯をと、好みに合った食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が足りない方には捕食、水分量が足りない方には、不足分を好みのもので補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・ウエットでの口腔ケアを、毎食後行えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、リハパンを使用しているが日中は布パンツを使用している方がいる。オムツの方でも排泄パターンにあった支援を行っている。	排泄チェックシートを活用し、自宅ではリハビリパンツを使用していた利用者が、日中は布パンツ、夜間は定時誘導で対応できるようになった。尿意がない利用者にもできるだけトイレで排泄してもらえるように定時誘導もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ、乳製品、果物など進めて、個々に適した対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定せず入居者の意向を尊重し、入浴を進めている。夜間に関しては職員の人数が減り希望に添えない時もある	曜日や時間は固定しておらず週3回の入浴を目標に支援している。拒否の強い利用者には職員が交代で声を掛けたり、時間を変えたり、過去に上手く誘導できた方法を活用するなど、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れていなかったり、日中ウトウトされている方は、居間や居室で横になって頂いたりして休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が確実に理解・把握できるように、管理の仕方・変化の確認を強化していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割を持っていたり、散歩やおやつ作りなどの楽しみごと、気分転換など喜びのある生活を送って頂けるように努めている。忘年会や花見などの行事も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩などご家族にも協力していただきながらできるだけ戸外に出かけられるよう努めている	散歩や買い物には基本的に1対1で出掛けるようにしている。地域住民の個人的好意により、春には桜のきれいな個人宅の庭にお花見に出掛けるよう計画をしている。利用者個々の希望にはなかなか添えないこともあるが数人で海に行くなどの気分転換もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には高額にならない程度で所持していただき買物に出掛けたときなどに好きなものを購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をすることを希望される方には事務所の電話を利用していただいている。手紙のやり取りを日常的に希望される方は現在おられないが年賀状をご家族へ出した職員が支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・温度はこまめに調節し、花・飾りなどで季節を感じて頂けるよう努めている。	“居室は利用者の家である”という考え方に基づき、居室入口には木製の表札が掲げられている。利用者が集う居間スペースの片隅には、さりげなく花を飾るなどの配慮がなされているが、廊下スペースに関しては、そのような工夫がほとんどみられない。	廊下スペースにも利用者等が安心感や温かみを感じることができるよう工夫することが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも一人で過ごせる空間がある。気の合った同士で思い思いに過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居前に暮らしていた部屋に似た様に家具の配置などご家族の方と相談している。	今まで使用していた家具を持ってきている。夫と一緒に写っている写真を壁に飾っていたり、持参したアルバムを大切にしている利用者や、持ち込んだ仏壇に毎日手を合わせることを大切な日課としている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札をつけ文字からも認識できるように、トイレの戸へ「トイレ」と張り紙がしてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム香寿	ユニット名	海
所在地	静岡県磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276600349&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活様式やその方のこだわりを大事にし、出来るだけ継続していけるようにする為使い慣れた馴染みのある物の中で生活していただきます。生活面でも自然な生活リズムを大切に、起床時間、就寝時間、食事時間を決めずゆったりと一日を過ごしていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念に加えて事業所独自のケア理念を事業所内に掲示し、常に確認している。また具体的に10項目のケア目標として表し実践にとりくんでいる	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の防災訓練や草刈りなどに参加している。また利用者様と地域行事を観覧させて頂いたり、散歩に出た時など、地域の方と笑顔であいさつを交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフから地域の方たちと交流の場を多く設けられる様心掛けることにより、認知症・事業所への理解をして頂けるよう努めていきたい。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度3地区自治会長、市高齢者福祉課職員、地域包括職員、家族代表職員等の参加により開催している。その際の参加者の声をサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者様と連絡を密に取ることで、情報交換・アドバイスを受け、協力関係を築けるよう取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし拘束に繋がるような行為が無いようスタッフ一同心がけている 玄関の施錠は夜間のみとしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修へ参加している 必要に応じて対応する職員を交代する等して虐待が起こらないよう防止に努めている	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで日常生活自立支援事業や成年後見制度を実際に利用したケースはないが支援事業や制度について学ぶ機会を持ち、必要性を理解し活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には必ず丁寧な説明質疑応答をしご家族様にご納得いただいてから実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の方から気軽に意見を言って頂けるように、日々コミュニケーションを大切にしている。頂いた意見は申し送り時などスタッフで話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度話すようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修スケジュールを組んだり役割を作ることによりそれぞれの希望や能力に合った条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り業務を通じて必要な知識や技術、心構えを学べるように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や行政主催の連絡会に参加する機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わり合う時間を多く取れる様心掛けている。コミュニケーションを取ることで、少しずつ信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族に困っていることなどを尋ねながら密にコミュニケーションをはかり、ご家族の方の要望・不安など話して頂ける関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階でご本人にとって何が良いのかを一番に考え必要と判断した場合には他のサービスの説明も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をする等できることはやって頂き、支援が必要とされることは、一緒に行うよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を伝えていきながら家族からも情報もらい情報を共有し一緒に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟に連絡したり友人に面会に来てもらったり家族にも協力してもらいながら馴染みの場所へ出掛けられるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士でユニットに関係なく過ごせるようにしている 孤立してしまいそうな時には職員が間に入り関係を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方にも必要があれば相談や支援ができるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり困難な時には家族から情報を集めたりして本人の意向にそえるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人、担当ケアマネ、利用サービス先の職員から今までの生活歴や好みもの生活習慣の聞き取りをし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化を見逃さず、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人、スタッフの意見を取り入れながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付き・ケアの実践などスタッフ間で伝えあい、対応の相談をしている。個別記録を有効に使用し、介護計画の見直しに活かすよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう、その時々をニーズを把握し、サービスの多機能化に取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院や移動式パン屋等の利用をしたり地域の行事にも参加させていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、本人・ご家族の方の希望を伺っている。かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも情報の共有をし必要に応じて受診や医師への相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には何度も病院に足を運び病院関係者との情報交換や相談を密にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入居時よりご家族の方と話し合い、事業所でできること・方針を共有し、思いにそえる支援ができるよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が確実に対応できるように、学びの場・訓練の強化に努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い自治会長や行政の方にも参加していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で入居者が自己決定ができるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、思いを大切にできるように、スタッフが利用者様とゆっくり関われる場を設けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様とその日の服装を一緒に選んだり、髪をゆったりしている。美容院で散髪などの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備の簡単作業・食器拭きなど手伝って頂いている。その他でも支援の仕方のできることは多いと思うので、力を活かした支援ができるよう努めていきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶の時間にこだわらず好きな飲み物を勧めたり食事量の少ないときには食べられるものを補色で勧め水分・食事量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は行っているが毎食後の口腔ケアは行われていないので対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援、リハパン必要性の有無を見直していきたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・果物など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は固定せず入居者の意向を尊重し、入浴を進めている。夜間に関しては職員の人数が減り希望に添えない時もある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や状況に応じて、居間や居室で休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が確実に理解・把握できるように、管理の仕方・変化の確認を強化していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割を持っていたり、散歩やおやつ作りなどの楽しみごと、気分転換など喜びのある生活を送って頂けるように努めている。忘年会や花見などの行事も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩などご家族にも協力していただきながらできるだけ戸外に出掛けられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には高額にならない程度で所持していただき買物に出掛けたときなどに好きなものを購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をすることを希望される方には事務所の電話を利用していただいている。手紙のやり取りを日常的に希望される方は現在おられないが年賀状をご家族へ出したがり職員が支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間など、居心地良い場となるよう努めている。もっと季節を感じて頂けるよう支援していきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファの位置など工夫し、共用空間の中でも独りになれるよう、思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく過ごせるように、本人・ご家族の方と相談しながら馴染みのあるものを持参していただくなどの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいように表札をつけている。 トイレには張り紙をして分かりやすくしている		